

ふれあい

社会福祉法人 京都府社会福祉事業団

Vol. 101

Kyoto Social inclusion



学校別リクルーター大活躍！始動して今年で2年目ですが、リクルーターの活動が大学のフェアや講義につながっています！

TOPIX

P2,3

施設長ごあいさつ

P4,5

【特集】ふだんのくらしのしあわせ
各施設の日中活動をのぞきみ 📷👁️

P6

新規採用職員対象研修
新規採用職員インタビュー

P7

法人独自でインターンシップを開催

P8

令和5年度事業報告・決算
数字で見る **KSJ**

PICK UP!
リクルートイベント

法人就職説明会 2024開催！

@QUESTION(河原町御池下ル)



各施設の職員が
事業団の魅力を発信しました！

施設長ごあいさつ

令和6年度がスタートいたしました。本年度も京都府立の施設を運営している事業団として地域の企業や学校、他法人など多様な機関とのつながりを大切にしながら、法人内外での連携による新しい取組みをさらに生み出していただければと考えております。

各施設の施設長より、リーダーとしての意気込みや運営への思いを込めてごあいさつ申し上げます。



副所長
高尾 浩之

心身障害者福祉センター

心身障害者福祉センターは、障害者支援施設やリハビリテーション病院、生活訓練・相談支援事業所、そして体育館など福祉と医療の複数の施設が連携しサービスを提供する複合施設として、自然豊かな城陽の地に根付きまもなく半世紀を迎えます。

この間、私どもは地域みなさんに愛され信頼いただくために、職員の資質向上はもとより、相互にリスペクトすることにより多職種の専門人材が連携し協力しながら安心安全の福祉・医療サービスの提供に努めてまいりました。

これからも、これまで以上に信頼いただける府立施設でありたいと考えています。



院長
徳永 大作

心身障害者福祉センター 附属リハビリテーション病院

リハビリテーション病院は小規模な病院ではありますが、スタッフがチームとなって、心のこもった医療を行うことが誇りです。最新の技術や知見をタイムラグなしに必要な方に届けるため、府立医大と直結し、リハビリテーション医療の教育施設としても発展することを目標に掲げています。

隣接するサン・アビリティーズ城陽に設置された、パラパワーリフティング競技NTC（ナショナルトレーニングセンター）をはじめとするパラスポーツへの積極的な医科学支援を含め、特徴ある病院としての存在感を増していきたいと思っております。



総括施設長
則枝 勝也

心身障害者福祉センター

洛南寮

心身障害者福祉センター障害者支援施設及び洛南寮ともにコロナ禍前の落ち着きをやっと取り戻し、ご家族との面会や各種行事が再開され、日々の支援の充実につきましても動き出しているところであります。心障センター入所施設では相談支援事業所TOMOと連携し、利用者の意思決定に基づき地域移行に向けての取組み、生活訓練事業所ひまわりでは高次脳機能障害者に対する専門的支援プログラムの構築、また洛南寮では社会復帰への取組みやご高齢の方々の日々の暮らしの充実を図ってまいります。それぞれの事業所の対象者は違いますが、利用者の方々の想いに寄り添い、その自己実現に向けて支援を届けたいと考えています。



施設長
瀬尾 享弘

洛南寮 養護老人ホーム

少子高齢化により13年後には国民の3人に1人が65歳以上になると見込まれています。養護老人ホームは、様々な事情で生活に困窮される方のために健康で安心・安全な日常生活を営めるよう支援をしています。職員の専門性向上や介護機器・ICT機器を積極的に導入し、利用者には選ばれる施設作りを行っています。

昨今の制度上の要因等から定員に満たない運営となっておりますが、中長期的な視座から施設の役割を見極め、各関係機関と連携・情報共有を行いながら地域のニーズに応えていく施設を目指してまいります。



施設長
吉岡 謙

洛南寮 救護施設

4月より洛南寮救護施設長を拝命致しました吉岡です。昨年度は心身障害者福祉センターで勤務しておりましたが、2年ぶりに救護施設へ戻ってまいりました。

施設長と課長、初めての役職を一気に2つ…これまでに経験のない、慌ただしい3カ月を過ごしておりますが、これまで一緒に仕事をしてきた皆様に温かく迎えて頂き、新たなスタートを切れた事、大変ありがたく感じております。

生活困窮者支援を担う救護施設としての役割を果たせる様、職員一同、力を併せてより良い施設運営に取り組んでまいります。



施設長
宮崎 佳子

東山母子生活支援施設

近年はDVや虐待だけでなく、精神疾患や発達障害をお持ちの方も多く、様々な課題を抱えた母子支援の難しさを感じています。令和6年度は心理担当職員（こころの相談員）が新たに常勤配置となり、様々な不安を抱える母子の精神面のサポートを充実していきます。

また子どもの居場所作りとして入所中の児童や退所児童を対象に「子ども食堂」の取組みを進めています。母子にとって安心して生活できる場所となり、退所後にも拠り所となるような施設を目指し、お一人おひとりに寄り添った支援をしていきたいと思ひます。



所長
鎌部 正信

視力障害者福祉センター

視力障害者福祉センターでは、視覚障害者の自立と社会参加を支援するため、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成を行っています。

近年は、ICTの発展により障害があっても様々な情報を手に入れることができるようになり、就労の機会も増えてきましたが、今でもあはき業が視覚障害者の職業的自立の中心的な役割を果たしています。視覚に障害があっても、それぞれの特性に応じて能力を発揮し、自らの意思と希望に沿って生き生きと働き続けることができ、社会を支える一員として活躍される人材の育成に努めます。



園長
畑段 隆浩

桃山学園

園長に就任して2年目。子ども達と一緒に“楽しい学園”運営に取り組めます。

今、国は全国の児童福祉施設に対して、家庭的な養育環境の確保、小規模化及び地域分散化などを進めようとしています。

学園では、小規模グループケアや自立支援のための一人暮らし体験など新しい取組を進めていますが、国の流れに沿ってサテライト型施設や地域小規模施設を実施するべく調査・検討を始めるとしてしています。より家庭的な養育を目指し、子ども達の笑顔溢れる施設にするため、今年度も様々な取組を進めて行きたいと思ひます。



所長
平井 清

こども発達支援センター

令和6年度は障害福祉サービス等報酬と診療報酬のダブル改定の年です。

障害福祉においては児童発達支援センターが地域の障害児支援の中核的機関として機能することが示されています。多職種がいるセンターの特徴を活かし、特に地域へのアウトリーチ型の支援はもっと強化したいと考えています。また、児童発達支援事業は従来の医療型、福祉型の区別がなくなり、地域のニーズ、府の施設としての在り方をふまえて展開を図っていきます。

診療については全国的な問題である発達障害児の医療体制整備について、京都府と協力しながら進めていきます。こども相談室との連携も充実させていきます。



センター長
渡邊 由佳

発達障害者支援センター

発達障害者支援センターの役割は相談支援を基とし、現在は間接支援にも重点を置いています。はばたきでは発達障害者支援の充実とシステム整備のため、専門職に対するニーズ調査を実施し、そのシステム構築を進めています。また、専門職を対象とした研鑽の場として研修実施に注力し、併せて支援に対する普及啓発を進めます。圏域支援センターが行う地域支援が地域支援機関との協働のもと機能していくようバックアップを行い、京都府内における発達障害者支援ネットワークの充実を目指します。

特集 ▶ ふだんのくらしのしあわせ

各施設の日中活動をのぞきみ



京都府社会福祉事業団は様々な種別の施設を運営しております。中でも24時間365日利用者様が生活されている入所施設では「ふだんのくらしのしあわせ」を充実させるために様々な日中活動を行っております。今回の特集では、日中活動の一部を担当職員の想いとともにご紹介いたします！

心身障害者福祉センター

制作活動



利用者Aさんが主体となって壁面制作の飾りやゲームを作成し、他の利用者さんと一緒に楽しんでおられます。

壁面制作を積極的に行っていましたが、ある時「パーティー気分になれるようなものが作りたい」と思い立って、YouTubeなどで作り方をみながら、お惣菜からスイーツまで幅広く自分で工夫して作ってみようになりました。



利用者Aさん



▲手作りのゲームで交流されている様子



活動担当者 生活支援員 A職員

利用者さんの能力をいかしつつ、一緒に楽しめる日中活動を目指しています。計画する中で危険性はないか、みんなが参加できるものか等、日中活動系の職員と話し合い、決定しています。日中活動の中で利用者さんに対する新しい発見ができたり、なにより日中活動を終えて笑顔になってくれることが一番うれしいです。

東山母子生活支援施設

施設内で対象者に応じた活動グループを構成し、職員やボランティアの方々と活動しています。

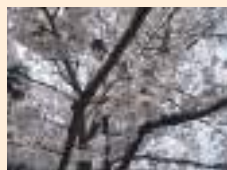
学童保育「ドリームクラブ」



日々子ども達と遊んでいます！

平日の午後には下校した小学生を対象として勉強や遊びの活動を行っています。長期休暇では遠足にも行きます。今年度は小学生が少ないことから中高生にも対象を拡大しています。

かるがもクラブ



▲お花見に行ったり



▼お菓子を作ったり

親子での交流を通じて心の安定や関係の構築につながればと、野外・室内問わず様々な活動を行っています。外部講師によるデザイン教室でのモノづくり活動も好評です。



活動担当者 少年支援員 B職員

「利用者さんが楽しめること」を1番に考えて活動を考えています。学童ではお知らせの段階から遊び心を入れたポスターを掲示したり、子ども達が楽しめそうな遠足の場所を色々調べたりと大変ですがこだわりをもって日中活動を考えています。





棒を使うことで動きやすくなる!

洛南寮

棒体操



週2日15時から健康増進を目的として新聞紙を丸めた棒を使用した体操をはじめ、指先、足等の運動を30分程度行います。

短冊に願い事を書きました!

壁面制作



日頃のレクリエーションで作成した飾りを廊下の壁面に飾り付けします。7月の壁面は七夕をモチーフにした作品に仕上げました。



活動担当者
作業療法士 C 職員

洛南寮は生活施設なので、いかに日常の中で運動を取り入れることができるかや、曜日を決めてレクを行うことで曜日感覚を意識して過ごしてもらおう事を考えながら、日中活動を日々行っています。



活動担当者
生活支援員 D 職員

一人ひとり得意なことが違うので、1つ制作をするにも利用者さん自身がやりたい作業を分担して1つの壁面を制作しています。想像以上に良い作品になることが多いのでとても楽しいです。

桃山学園

桃山農園



トマト、きゅうり等いろいろな作物を作っています!



季節ごとの野菜の作付けをし、育てて収穫しています。野菜作りにはいろいろな工程があります。子どもたちと一緒に畑を耕したり、作物に水やりをしたり、中でも一番楽しみなのは収穫です。実った野菜を手にとり、みんな生き生きとしたとてもいい笑顔を見せてくれます。

活動担当者 業務指導推進役 E 職員

当時の理事長から「子どもとともにできることをしてはどうか。」とアドバイスを頂いて以来、敷地内の一角に畑を作り、毎年桃山農園を行っています。収穫後の野菜を子ども達が頬張る笑顔は、私にとっての元気の源です。みんなに声をかけつつ、興味のある子どもたちが積極的に手伝ってくれ、作業をしながら日頃の様子を話してくれるのも桃山農園の楽しみになっています。



今回紹介した日中活動以外にもたくさんの日中活動があります。利用者様の希望に寄りそった支援を日々心掛けています。

新規採用職員対象研修

フォローアップ研修を開催！

令和6年6月18日、4月に入職した新規採用職員を対象にフォローアップ研修を開催しました！（参加者12名）「感染症対策」をテーマに座学と体験型の講義を受けた後、先輩職員との座談会を行い、約2か月間働いてみて困った事や、今後の目標について意見交換しました。職員同士での交流を深めるとともに、モチベーションの向上につながる機会になるよう取り組みました。



座学の様子



座談会の様子



防護服着用の様子

- ・他施設の同期の働き方はどんな感じ？
- ・電話対応が苦手で…
- ・資格が活用できた場面はある？
- ・仕事は覚えてきた？ 等

同期や先輩職員に今の状況を報告し合いました。

新規採用職員インタビュー！！

入職後3か月を振り返ってみてどうですか？



4月の入職から3か月が経過しましたが、新規採用職員へ仕事や職場への想いなど率直な感想をインタビューしてみました！また、エルダーとしてサポートしている先輩職員にも新規採用職員の活躍についてお答えいただきました！

心身障害者福祉センター



F職員（新採）・G職員（エルダー）

F職員（新規採用職員）

入職から3か月経ちましたがまだ慣れない事も多いです。特に変則勤務を学生時代はしたことが無かったのでまだ慣れていません…これから慣れていこうと思います！施設内では新卒が私だけという事もありエルダーの先輩だけではなく、過去エルダーを経験された先輩方、その他の先輩方も毎日気にかけてくださっているのが安心して業務ができています。困った雰囲気を感じ取ってくださってすぐに助けてくださったり、利用者さんとの関わりについてアドバイスをくださるなど、日々勉強させていただいております！

G職員（エルダー職員）

同一シフト期間を離れてからは、一緒になる機会が案外少ないのですが、記録を見ながら、「きちんと詳細を書いているなあ」と、後追いで確認しています。お互い人見知りな所はありますが、疑問に思ったことや、対応に迷ったことなどあればこれからもどんどん聞いて下さい。大変なこともたくさんありますが、楽しく仕事をするのが一番だと思います。これからもよろしくお願いします。

洛南寮



H職員（新採）・I職員（エルダー）

H職員（新規採用職員）

初めの頃は臨機応変に動けない自分にもどかしさを感じていましたが、エルダーをはじめ他の先輩方が、日々の業務が忙しくても親身にフォローして下さるので不安な気持ちはすくなくなくなり、毎日楽しく働かせていただいております。利用者の方々も「慣れた？」「無理しないでね」と声をかけてくださり、元気をいただいております。まだまだ勉強する事ばかりなので、これからも頑張りたいです！

I職員（エルダー職員）

入職されて始めの頃は誰もが何をしていたかわからないと思います。そんな中で、わからない事は先輩職員にすぐに聞いて解決されている姿を見て、早く仕事に慣れようとしていたんだなあ〜と、とても感じました（*^^*）持前の明るい性格から利用者さん、職員のみなさんとすぐに打ち解けていましたし、利用者さんとのやり取りもとても丁寧で、学ぶことが多く、私自身も支援の仕方を振り返る良い時間となりました。

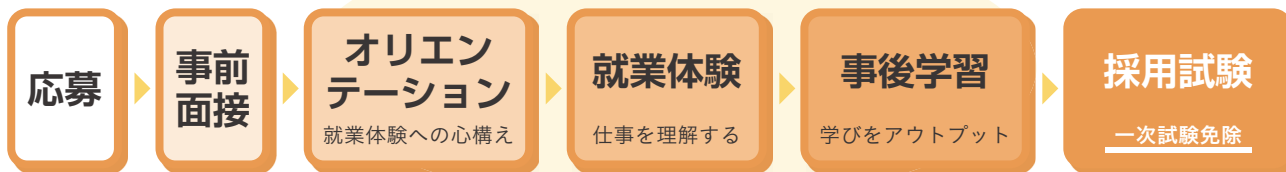
法人独自でインターンシップを開催(R6年2月)

今までと何が違う? ~採用直結型のインターンシップ~

国の方針で「インターンシップ」の定義が見直されたことにより、一定の条件を満たしたインターンシップ参加者の情報を採用活動に活用できるようになりました。そのため、法人内複数施設の見学・体験と課題に応じた学びを成果とする、7日間のプログラムでインターンシップを独自に開催しました。参加者が採用試験に応募された場合、一次試験を免除するという採用直結型のインターンシップです。

インターンシップの流れ

7days! プログラム



1日目 オリエンテーション

オリエンテーションで7日間の動きや目標を確認したほか、法人概要や支援の心構えについて学んでいただきました。

2~5日目 就業体験

2日間ずつ、各自異なる2カ所の施設で就業体験を行っていただきました。
[心障(支援課)・洛南(養護課・救護課)・桃山(支援課・養護課)から2カ所]

6~7日目 事後学習

施設見学(東山・視力)と、事後学習としてお互いの体験内容を共有し、福祉の魅力についてまとめていただきました。

インターン生からの声



このインターンシップを通して、より福祉の職に興味を持ち、就職したいと感じました。職員の皆さんがとても温かく私たちを迎えてくださったので、緊張しすぎず学ぶことができました。

施設内の仕事や雰囲気も知ることができ、貴重な体験ができました。

「人」と「人」との距離が近いことが福祉の魅力だと改めて感じました。



能登半島地震の被災地へ 応援派遣いたしました

全国社会福祉事業団協議会を通して、能登半島地震における1.5次避難所への介護職員の派遣依頼を受け、当法人から3名の職員を派遣いたしました。

*職員の派遣報告資料より



令和5年度事業報告・決算 数字で見るKSJ

職員数

335名



年次有給休暇取得率

60.7%

年次有給休暇取得数

12.1日



年間休日日数

127日



新規採用人数

(R5 4/2 ~ R6 4/1 採用者)

12名



時間外労働時間

7.2時間/月

(昨年度 7.5時間)

女性の役付職員割合



71.7%

(昨年度 67.6)

離職率

5.9%

(昨年度 8.6%)

インターンシップ
実習受入人数

191名

国家資格取得実績

社会福祉士

4名

精神保健福祉士

1名

保育士

1名



個別説明会
フェア参加者数



249名

実践研究発表会
発表演目数

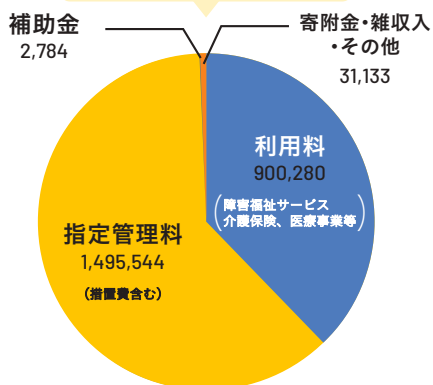


8題目

決算報告

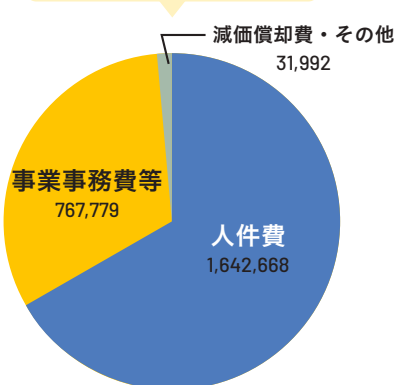
事業活動計算書

収入の内訳



(単位：千円)

支出の内訳



(単位：千円)

令和5年度に取り組んだ内容は、ホームページの情報公開に事業報告・決算書として公開しております。是非、ご覧ください。



こちらからどうぞ



ふれあい vol.101

発行日 令和6年7月31日

発行責任者 理事長 中本 晴夫

8 ふれあい vol.101

社会福祉法人 京都府社会福祉事業団

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地

京都府立総合社会福祉会館6階

TEL 075 (222) 2212 FAX 075 (222) 2236 WEB <https://ksj.or.jp/>

